

令和5年度 第2回 丹波市立図書館協議会 会議録（要旨）

◇日 時：令和6年3月8日（金）

◇開 会：午後1時30分

◇閉 会：午後3時30分

◇会 場：丹波市立中央図書館 視聴覚室

◇出席者：（会 長）畑田 久祐

（副会長）中澤 利恵

（委 員）足立 宏幸

吉住 美代

伏田 雅子

矢本 正巳

藤原 廣宣

梅垣 泰三

常石 孝子

細見 能成

◇欠席者：なし

◇図書館事務局：小畠 崇史

近藤 利明

高見 弘子

嶋崎 美紀

1. 開 会

進行：丹波市教育委員会教育部社会教育・文化財課 課長 小畠 崇史（以下、課長）

2. あいさつ

丹波市立図書館 館長 近藤 利明（以下、館長）

会長 畑田 久祐（以下、会長）

3. 報告事項

以下の事項は、会長の進行による。

（1）令和5年度 図書館事業取組状況（事業実績）

説明：図書館係 係長 高見 弘子（以下、係長）

委員

今年度、私は中学校の学校図書館サポーターとして学校図書室に行かせていただき、図書館にお世話になった。サポーター活動を通じて、学校の図書室担当者に推薦図書の情報や図書廃棄の仕方を指導する取り組みが少しできた。事業としての報告まではいかないが、一定のステップとして、報告する。

委員

子ども司書養成講座受講生9名の学校名は公表できるか。新井小学校の学校運営協議会委員をしており、呼びかけができると思う。校長会で呼びかけはしているのか。

係長

4月の校長会で、令和6年度の募集についてご説明をする予定である。

図書館事務局 職員

子ども司書認定者9名の学校名は、西小学校が2名、北小学校、中央小学校、進修小学校、吉見小学校、東小学校、黒井小学校、新井小学校が各1名であった。

副会長

養成講座を受けた子どもたちは学校に戻って、学校の中で何か活動しているのか。

係長

その後の学校での活動については、把握できていない。

委員

私が在籍していた頃は「こんな風に子ども司書の認定を取ってきた」という校内放送を行ったり、全校集会で発表していた。せっかく子ども司書の認定を取ったので、学校の中で何か活動ができると良いと思う。

副会長

子ども司書が読み聞かせグループの読み聞かせに参加している。その活動も良いが、学校の中で何か活動できる場があるのも良いと思う。

係長

校長会で、認定後の活動の場についてもあわせてお願いしたいと考えている。

委員

本校から2名が参加していたが、2名とも4年生である。学校で特別なことはしていない。図書委員会に所属している児童もあり、校内で本の紹介をすることもある。掲示物での紹介が主になっているが、活動の場については持ち帰って検討したい。

(2) 令和5年度 丹波市立図書館の利用状況について

①利用状況（図書）

②利用状況（電子図書）

説明：係長

委員

資料2の表で令和4年度2月分の開館日数はじめ他の数字の記載がぬけているので確認し、修正をお願いしたい。

委員

電子図書館は、朝読などで利用されているのか。子どもたちにタブレットを配付されているが、そのタブレットで利用しているのか。

委員

正式な統計を取っていないため、数値はわからないが、実際にタブレットで読書をしている生徒もいるので、一定数はいる。

委員

丹波市電子図書館を利用しているのか、一般のkindleのような電子図書を使用しているのか。

委員

一般の電子図書は接続が不可能であるので、タブレットで利用するのであれば丹波市の電子図書館である。

委員

朝読書用の電子図書があり、朝読で読み切れないものは自宅にタブレットを持ち帰れば読

める。そのような取り組みの連携はあるのか。

係長

校長会で電子図書館について説明させていただいたことはあるが、その後の利用状況について把握できていない。

委員

丹波市の財源を使って電子図書館を実施しているので、小中学生で電子図書館を利用するスキルを身につければ、子どもたちが今後、丹波市の電子図書館を使うことができるようになる。同じ教育部の中なので図書館と学校が連携される方がよいと思う。

会長

今の意見を教育部へ持ち帰り、図書の研究部会もあるので、そこでも取り組みについて検討する議論ができればよいと思う。

(3) 「令和6年度 丹波市の教育～実施計画～」について

説明：係長

委員

子ども司書認定後の活動について、「子ども司書の活動方法を学校で考えてください。」と言っても、学校は「子ども司書認定者」を利用しないと思う。他の子どもも本を親しめるような活動方法を例示することができないかなと思う。

「家読（うちどく）」について、家庭での親子読書が大事だと思う。「家読（うちどく）」のやり方を提示し、PTAとも連携を取りながら家庭での親子読書に親しむやり方を具体的に提示していかなければいけないと思う。

ブックスタートについて、こども園で図書館職員が読み聞かせをしていると思うが、すべてのこども園へ図書館員が行くことはできないか。こども園に親子が読み聞かせを聞きに来られた時に、そこで利用者カードを作ることはできないか。子どもの頃から、自分のカードを持って図書館で借りることを体験してもらうこともよいと思う。

委員

私は、読み聞かせボランティアグループに所属し、市島図書館で幼児を対象に、1カ月に1回、読み聞かせを行っている。先日、子ども司書認定者がその読み聞かせに参加してくれた。事前に校長先生が校内放送で知らせてくれたので、学校の友達が多く参加してくれた。初めて図書館に来てくれる子もいたので良いことだと思った。

委員

学校の図書担当者が図書館のことをご存じない。同じ教育部なので、図書館運営と学校図書室をもう少しすり合わせたりできないのか。公共図書館と学校図書館は法律も違うので難しい部分もあると思うが、もう少し風通しが良くなれないかと思う。

牧野氏の展示会や善積さんの作成された絵本の読み聞かせのように、地域でされている研究と図書館の風通しも良くして、研究と図書館を結びつける活動もできるのではないかと思った。

地域の資料収集について、歴史的資料は、丹波市の図書館も貸出禁止で資料を保存しているが、戦後以降の地域の活動資料がほとんどなくなっている。氷上町のある先生にお会いした時、資料を置く場所がなく持って行くところもないと言われた。図書館へ寄贈したくても受けてもらえない。それでは、一体どこで保管できるのか。それが図書館と思うが、そ

れも無理だと思うので、地域の公民館に置くなど、もう少し地域とつながる活動ができないかなと思った。

それから、少し前までは、6館の特色がもう少しあったが、今は違ってきていると思う。そんな意見も周りで聞いたのでお伝えする。

会長

図書館のあり方を考えていく中で、貴重な意見を事務局で整理してほしい。

4. 協議事項

(1) 令和6年度丹波市立図書館の取組について

①令和6年度丹波市立図書館事業計画（案）について

説明：係長

委員

こども園では絵本の読み聞かせを保育士が毎日行っているが、小学校で図書館職員がブックトークをされた時、子どもたちの本への勢いが違う。子どもたちに興味を持たせる、関わりを持たせるという意味で、こども園の園長先生との連携も取っていただきたい。

委員

各公民館で子どもを含めたワークショップがあるので、そういうものと図書館を繋げていくのはどうか。公民館の中にある図書館ならではのやり方もあると思う。

電子図書は苦手だが、紙の本は拡大できない。ある図書館に行くと拡大する機械やリーディングトラッカーもあった。高齢者は図書館利用の固定客層なので、ぜひ利用をいただきたい。単に物理的なバリアフリーだけでなく、「私たちはこういうことを考えて図書館の門戸を広げていますよ」と宣伝することも行ってはどうかと思う。

②令和6年度蔵書計画（案）について

説明：係長

委員

予算2,000万円は同規模の公共図書館を比べたら多いのか。

会長

多いと思う。長年続いている2,000万円を削られないように頑張してほしい。

委員

一般書と児童書の割り振りは何か考えてはあるのか。2,000万円は一般書にし、児童書は子ども子育ての交付金を使って・・・という考え方はないのか。

課長

財源の話だが、6館の中で本を保管できる場所も限られてきているので、これ以上、蔵書を増やしていくことが難しい現状もあり、バランスを考えてやっていきたい。各館どの分野を強化するなども検討していきたい。

③令和6年度図書館の開館日について

説明：係長

（２）「丹波市立図書館のあり方」策定について

説明：課長

委員

令和 7 年から令和 17 年、2025 年から 2035 年ですが、人口動態や子どもの数は先がわかっているので、その子どもたちに対して 6 館が必要なのかどうか、それを策定に織り込んでいくことが必要ではないか。

3 年ごとの数値的な目標について、貸出数か、違う指標にするのかを検討し、大学教授を招いて策定するので、丹波市としての最終目標を示し、それに対して丹波市がどのように取り組んでいくべきかについて意見を聞き、予算を使ったら良いと思う。

人口は確実に減り、子どもも減り、小学校も減っていくので、その中で図書館のあり方の検討が必要になると思う。

課長

実際に丹波市総合計画で想定していた 2060 年の人口よりも現時点で下回っているので、そういったことも図書館の利用に関して考慮する必要がある。今後は多様な図書館サービスを検討していく必要があるので、ご意見をたくさんいただきたいと思う。

委員

30 年ほど前に小学校の教師をしている時に、「学校の図書館を見直しましょう」という話があった。学校の図書館は「おはなしの本を読むところ、借りるところ」というイメージをやめて、「情報の拠点という発想に変えましょう」、「授業自体も変えていきましょう、問題解決的な学習をやりましょう」ということで、子どもたちが課題を作って自分たちで調べて答えを自分たちで見つけていく、その答えを見つけるための情報が図書館になればいけないということである。「特に理科や社会科で役立つ本がたくさん入っていないと、情報としての拠点にはならない。そういう発想で図書を変えて行きましょう」と学校の中で話をしたことを思い出した。この丹波市の図書館も、今、同じように変わらなければいけないと思う。

昔、「無料貸本屋」という言葉があったが、無料の貸本屋でどちらかと言えば、おはなしの本を借りる人が多いという状況で、今、課題解決型の図書館に変わっていかないといけないのではないか。この地域の人たちがどんな課題を抱えていて、どういう資料を欲しがっているのかを調査しなければいけないと思う。色々な問題があるが、それを解決するための資料が図書館になれば、図書館を利用する人はやはり少ないと思う。今の課題に応じた特設コーナーを作り、来てもらうことを考えていくべきだと思う。それには、まず、市役所の職員が、今の丹波市の課題について色々と議論され、施策を取られている。その職員が「図書館に資料があるので丹波市の図書館で勉強しよう」ということが言えるような図書館になっていかなければいけない。「生活や仕事を助ける図書館」という発想が大事だと思う。

今、色々なところで、江戸時代の古文書が出てきている。先ほど、それぞれのグループがそれぞれで資料を持っているので、資料を全部デジタル化して、市民が誰でも見られるような取り組みが大切ではないかという話が出ていた。

私もそのとおりだと思っており、江戸時代、中世、氷上郡の時の丹波市はどのような状態だったのかを、全体像として見る資料がないので、昔の氷上郡の様子がわかるような資料を集めて、どこかに保存することができたら良いと思う。

課長

魅力ある図書館がどういう姿なのか、市民にとってどういう図書館であっていいのか、学校との連携も含め、今回、見直しの中で非常に重要なことだと思う。

委員

図書館に何を期待しているかを周りの方に聞くと、「情報図書館としての図書館であって、調べものに答えてもらえる図書館が欲しい」と、特に高齢者の方が言っていた。「図書館で資料を集めているから、そこへ行ったら情報を提供してもらえるよ」と言える図書館でなければいけない。

特にコロナ以降、在宅で、多くの方が家の中の整理をされており、蔵書を処分する方も多い。「その蔵書は大事なのではないのか」と思った。中学校にも寄贈いただいた地域の本がたくさんあり、学校も置き場がなく困られている。この問題をどうにかしなくてはいけないと思う。

会長

市民プラザの中の男女共同参画センター図書コーナーは、その分野の本ばかりがあるので、見つけやすくて借りやすい。「ここにこういうコーナーがある」というのがわかりやすいと利用者也利用しやすいと思う。

課長

来年度、色々な話をさせていただく機会をたくさん設けたいので、積極的にご意見をいただきたい。

5. その他

6. 閉 会

副会長

本日もたくさんのご意見が出て、図書館の職員は人数が少ない中、たくさんの方の事業を考え実施している所に、新たな連携の話も出て、今後ますます大変だと思った。

これからの図書館のあり方の策定を通じて、地域の中でみんなが利用しやすい図書館へ変わっていくことを楽しみにしている。私も一緒に、図書館の運営について考えていきたい。